

自己評価結果等届出書

令和 8 年 2 月 28 日

鹿児島市長 殿

1 事業者（所）情報

事業者の名称 (法人名)	株式会社 サクラバイオ				
事業所の名称 (施設名)	運動学習特化型 児童発達支援 放課後等デイサービス グッドジョブスポーツ谷山校				
事業所番号	4650100706				
事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/>	児童発達支援	<input checked="" type="checkbox"/>	放課後等 デイサービス	<input checked="" type="checkbox"/> 保育所等 訪問支援
事業所の所在地	鹿児島市東谷山2丁目42-15 ソレイユ谷山1F				

2 公表状況

公表日	令和 8 年 2 月 28 日	
公表方法	1. 方法の区分 (プルダウンから選択)	ホームページ ↓ 2 にURLを記載
	2. 内容	https://goodjob.group/profile/#disclosure
	※公表をホームページ以外の方法で行っている場合には、公表している媒体の写しや事業所内の掲示箇所が確認できる写真等も添付すること。	

3 自己評価事務担当者情報

担当者名	稲村 康宏
連絡先 (TEL)	099-801-7101

※公表している自己評価表を添付すること。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動学習特化型 児童発達支援 放課後等デイサービス グッジョブスポーツ谷山校		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 13日	～	令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 13日	～	令和8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・運動療育を中心に、利用児一人ひとりの発達段階に応じたカリキュラムの提供が可能。	・集団療育、個別療育の曜日をそれぞれ設けており、ニーズや発達段階に応じて必要な支援の提供が行えるように取り組んでいる。	・課題に応じて運動療育、座学療育を組み合わせ、より個々に必要な支援へつなげていく。
2	・各専門職(理学療法士、作業療法士、心理士等)が在籍しており、専門性に特化した支援が可能。	・身体面、心理面など、専門的視点を生かした多角的な意見を取り入れるために、各職員で情報共有を行いながらアセスメント、支援につなげている。	・他事業所とケース検討など連携機会を設け、客観性を重視した支援につなげている。 ・職員全員の視点を広げ、各利用者に対し、より効果的な支援が行えるように、事業所内研修等に取り組んでいる。
3	・児童発達支援から放課後等デイサービスへの移行も可能であり、長期的な発達を見据えた支援が可能。 ・継続利用を行うことで、安心できる環境化での支援提供につなげやすい。	・同グループ内に中高生向けの事業所や就労支援事業所があるため、早い段階で将来まで考えた支援を意識してもらえよう案内を行っている。	・将来の不安感をなくし、安心して利用者のご家族が継続支援を受けられるように、移行先まで見据えた周知活動を行っている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・利用可能な曜日、時間が限られているため、利用日数や時間の希望に応えられないことがある。	・多機能型事業所のため、定員数が限られてしまう。	・関係機関との連携を密にすることで、利用時以外の支援につなげるための取り組みを行う。
2	・地域に開かれた事業所運営ができていない。	・日々の支援準備等を優先することで、積極的にイベントなど連携機会に時間を当てることができていない。	・地域行事への積極的参加にて、連携機会につなげていく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 運動学習特化型 児童発達支援 放課後等デイサービス
グッジョブスポーツ谷山校

公表日 令和8年 2月 28日

利用児童数 10 回収数

6

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	5	1				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	6					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6					
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1	1	3	1		・積極的な交流機会を設けることができていないため、今後検討させていただきたいと思います。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6					
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	6					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6					

保護者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6				
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5			1	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5			1	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5			1	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6				
	29	事業所の支援に満足していますか。	6				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	運動学習特化型 児童発達支援 放課後等デイサービス グッジョブスポーツ谷山校		公表日	令和8年 2月 28日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・ 体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		・個別～小集団を中心とした活動を行っているため、活動スペースは十分に確保できています。 ・活動量に応じて、公園等での外活動を取り入れるなど、支援に必要なスペース確保につなげています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		・道具の収納場所、机の位置、運動器具を並べる位置など、番号や写真を貼ったり、マーカーで示したりすることで、視覚的なサポートを行っています。	・小さな段差など、バリアフリー化が不十分な場所があります。利用者の特性に応じてスタッフが付き添い、危険がないよう配慮しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		・事業所内での座学研修、模擬活動等を行い、対応力向上につなげています。 ・法人内で毎月研修機会を設けることで、支援の質向上に向けた取り組みを行っています。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>			

適切な支援の提供

16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			

関係機関や保護者との連携

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		・交流の機会を設けることができていないため、今後検討させていただきたいと思います。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	・研修や講演会などの案内を定期的に行っております。	・家族支援プログラムによる直接的支援は行っておりません。ご相談いただいたお困りごとなどにつきましてはアドバイスをさせていただいております。今後の支援プログラムについては、検討させていただきたいと思います。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		・実施できていないため、地域との連携や行事の検討を行ってまいります。
非常時等の対	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			

対応	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動学習特化型 児童発達支援 放課後等デイサービス グジヨブスポーツ谷山校		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 13日	～	令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 13日	～	令和8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・脳機能改善、コミュニケーション能力向上を目的とした活動プログラムの提供を行っている。目的が明確化することで、利用者の課題に特化した支援提供が可能。	・基本的な活動については目的に応じた固定プログラムを採用しているが、同じ活動の中で内容に変化を取り入れることで、飽きさせない工夫や応用力の獲得につなげている。	・長期休暇や祝日などを活用し、課外活動を行うなど活動内容の幅を広げるための取り組みも行っている。
2	・各専門職(理学療法士、作業療法士、心理士等)が在籍しており、専門性に特化した支援が可能。	・身体面、心理面など、専門的視点を生かした多角的な意見を取り入れるために、各職員で情報共有を行いながらアセスメント、支援につなげている。	・他事業所とケース検討など連携機会を設け、客観性を重視した支援につなげている。 ・職員全員の視点を広げ、各利用者に対しより効果的な支援が行えるように、事業所内研修等に取り組んでいる。
3	・児童発達支援からの利用も可能であり、長期的な発達を見据えた支援が可能。 ・継続利用を行うことで、安心できる環境化での支援提供につなげやすい。	・同グループ内に中高生向けの事業所や就労支援事業所があるため、早い段階で将来まで考えた支援を意識してもらえよう案内を行っている。	・将来の不安感をなくし、安心して利用者ごと家族が継続支援を受けられるように、移行先まで見据えた周知活動を行っている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・放課後児童クラブ児童館など、地域の他児童と交流できる機会を多く設けられていない。	・目的に沿って決められた療育活動を中心にしているため、地域の他児童を巻き込んで活動を行うことが難しい。	・課外活動の機会を利用し、交流の企画・提案、地域への働きかけが必要と考える。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 運動学習特化型 児童発達支援 放課後等デイサービス
グッジョブスポーツ谷山校

公表日 令和8年 2月 28日

利用児童数 36 回収数 25

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	22	2		1		・スペースに適した活動プログラムを設定しております。 ・必要時には外活動を取り入れるなど、工夫してスペースを確保しております。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	22			3		・お子様の状態に応じ、個別対応もできるように、職員数の確保と配置を行っております。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	23	2				・小さな段差など、完全なバリアフリーとは言えませんが、こどもの特性や状況に応じてスタッフが付き添い危険がないように配慮しております。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	25					
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	24			1		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	23	1		1		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	23	2				
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	23			2		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	23	2				
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	25					
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	14	3	2	6		・積極的な交流機会を設けることができていないため、今後検討させていただきますと思います。
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	25						
13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	25						
14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	22				3	・定期的に講演会等開催しておりますので、今後も皆様に情報提供いたします。 ・保護者会の機会などを利用して、ご家族に情報提供も行ってまいります。	
15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	24	1					
16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	23	2					

保護者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	24			1	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	18	2		5	・年に1回以上、保護者会を開催しております。 ・保護者会の開催頻度を増やすなど、交流機会を設けられるよう検討してまいります。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	25				
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	25				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	24			1	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	25				
	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20			5	
非常時等の対応	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19	1		5	・年に2回以上、災害訓練を行っております。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	21	1		3	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	24	1			
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	21	4			
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	21	4			
	29	事業所の支援に満足していますか。	21	4			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		運動学習特化型 児童発達支援 放課後等デイサービス グッジョブスポーツ谷山校				公表日	令和8年 2月 28日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・ 体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・職員やこどもの配置場所、支援室の使い方を工夫するなど、環境を調整することで安全に支援ができるよう配慮しております。	・子どもたちの状態によっては（個別の対応が必要なとき）職員が多く必要になることがあります。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・道具の収納場所、机の位置、運動器具を並べる位置など、番号や写真を貼ったり、マーカーで示したりすることで、視覚的なサポートを行っています。	・小さな段差など、完全なバリアフリーとは言えませんが、こどもの特性や状況に応じてスタッフが付き添い危険がないように配慮しております。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・事業所内での座学研修、模擬活動等を行い、対応力向上につなげています。 ・法人内で毎月研修機会を設けることで、支援の質向上に向けた取り組みを行っています。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○				

適切な支援の提供

16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教材を準備することで、活動意欲の向上を図っています。 ・学校体育の日を設け、活動内容が固定化しないように配慮しています。 ・祝日等を利用した課外活動も実施しております。 	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援を行っているか。	○			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		<ul style="list-style-type: none"> ・交流の機会を設けることができていないため、今後検討させていただきたいと思っております。

関係機関や保護者との連携

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		○		・積極的な参加には至っておりません。機会をつくり参加させていただきたいと思えます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達 の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支 援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の 参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	・SNSなどを用いて、講演会等のご案内を積極的に行っ ております。 ・ご相談いただいたお困りごとなどについては、都度ア ドバイスをさせていただいております。 ・保護者会の機会などを利用して、ご家族に情報提供も 行っております。	・家族支援プログラムによる直接的な支援 は行っておりません。今後の支援プログラ ムについては、検討させていただきたいと 思います。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な 説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保 護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点 を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けて いるか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説 明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を 得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、 面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する 等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援を しているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける 等の支援をしているか。	○		・年に1回以上、保護者会を開催しており ます。	・保護者会の開催頻度を増やすなど、交流 機会を設けられるよう検討してまいります。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備す るとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合 に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用する ことにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこ どもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のた めの配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事 業運営を図っているか。		○		・積極的に実施できていないため、地域と の連携や行事の検討を行ってまいります。
非常時等の対	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニ ュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に 周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している か。	○			
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発 生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行って いるか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況 を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基 づく対応がされているか。		○		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他 必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が 行われているか。	○			

51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動学習特化型 児童発達支援 放課後等デイサービス グッジョブスポーツ谷山校		
○保護者評価実施期間	今年度実績なしのため、未実施。		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 13日	～	令和8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○訪問先施設評価実施期間	今年度実績なしのため、未実施。		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・各専門職(理学療法士、作業療法士、心理士等)が在籍しており、専門性に特化した支援が可能。	・身体面、心理面など、専門的視点を生かした多角的な意見を取り入れるために、各職員で情報共有を行いながらアセスメント、支援につなげている。	・職員全員の視点を広げ、各利用者に対しより効果的な支援が行えるように、事業所内研修等に取り組んでいる。
2	・放課後等デイサービス、児童発達支援と保育所等訪問の併用ができる。事業所内での様子と学校での様子を見ることができ、より明確な評価や支援につなげることができる。	・学校、家庭、事業所、三者間の連携を意識的に行い、環境に応じて必要な支援を検討・提案できるよう取り組んでいる。連携を深めることで、目線合わせを行っていき、総合的な支援につなげる。	・各所での対応をそれぞれ生かしていけるように、積極的に相談機会を設けることで、場面に応じた適切な支援につなげていく。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保育所等訪問支援の頻度や時間について、要望に応えられない状況。	・児童発達支援、放課後等デイサービス支援の兼ね合いや、園と学校の都合をすり合わせることで、要望に応じた保育所等訪問支援が難しい事がある。	・各学期ごとなど、早い段階で予定の調整を行い、各所の希望と都合に合わせた支援が提供できるように工夫が必要。
2			
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		運動学習特化型 児童発達支援 放課後等デイサービス グッジョブスポーツ谷山校				公表日	令和8年 2月 28日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点		
環境・運営・体制整備	1 訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	○					
	2 利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	○					
業務改善	3 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○					
	4 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○					
	5 従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○					
	6 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○				
	7 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			・事業所内での座学研修を行い、対応力向上につなげています。 ・法人内で毎月研修機会を設けることで、支援の質向上に向けた取り組みを行っております。		
	8 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	○					
	9 保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○					
適切な支援の提供	10 保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	○					
	11 保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○					
	12 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○					
	13 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	○					
	14 保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○					
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○					

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	○			
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	○			
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
... 機関 や 保護 者 と の 連 携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○			・外部の専門支援員の方より、保育所等訪問についての助言をいただいております。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。		○		・積極的な参加には至っておりません。機会をつくり参加させていただきたいと思えます。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			・講演会等のご案内を積極的に行っております。 ・ご相談いただいたお困りごとなどについて、都度アドバイスをさせていただいております。
保 護 者 等 へ の 説 明 等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	○			
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	○			
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○			
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			

	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
訪問先施設への説明	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	○			
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	○			
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	○			
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	○			
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			